

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人豊橋文化振興財団	
施 設 名	穂の国とよはし芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	29,538	(千円)
	公 演 事 業	20,597 (千円)
	人 材 養 成 事 業	7,004 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,937 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	未練の幽霊と怪物－挫波・敦賀－	2年6月27-28日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	1,100
		主ホール		実績値	0※
2	二分間の冒険	2年8月26-27日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	276
		アートスペース		実績値	0※
3	Noism 「春の祭典／FratresⅢ」	2年12月12日	演目：実験舞踊 vol.2『春の祭典』／FratresⅢ／『Adagio Assai』 演出振付：金森穰 ※	目標値	510
		主ホール		実績値	276※
4	小曽根真 クリスマス・ジャズライブ	令和2年12月19日	出演：小曽根真（ピアノ）、RINA（ピアノ） 演奏曲名：Something's Happening、Flores Do Lirio ほか ※	目標値	520
		主ホール		実績値	468
5	PLAT 小劇場シリーズ	令和2年9月～3年3月	上演団体と演目：地点「君の庭」、アル☆カンパニー「POPPY!!!」、木ノ下歌舞伎「義経千本桜」 ほか ※	目標値	2,030
		アートスペース		実績値	来場者 620+ オンライン 126回 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校生と創る演劇「Yに浮かぶ」	2年11月7-8日	作・演出：藤原佳奈 出演者：オーディションで選ばれた東三河地域を中心にした高校生	目標値	620（内訳 参加者20+観客600）
		アートスペース		実績値	473※
2	若手音楽家育成事業	2年5月～3年3月	出演者：過去に若手音楽家育成事業で選抜された音楽家たち	目標値	1,025（内訳 出演者25+観客1,000）
		アートスペースほか※		実績値	コンサート来場者481 +オンライン再生回数10,388回 ※
3	ワークショップファシリテーター養成講座	2年4月～3年3月	講師：柏木陽、すずきこーた、吉野さつき 参加者：過去の受講生たち ※	目標値	435
		とよはし芸術劇場		実績値	(参考値) 13 ※
4	インターンシップ事業	2年9月～12月	受講生：近隣大学の学生、劇場職員	目標値	100
		とよはし芸術劇場		実績値	延べ16 ※
5	演劇・舞踊ワークショップ & レクチャー	2年8月～3年3月	参加アーティスト、講師：ままと、河合祥一郎、木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）	目標値	200
		とよはし芸術劇場		実績値	参加者数：639 オンライン視聴回数554回 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	とよはしアートフェスティバル 2020「大道芸 in とよはし」	2年11月2-3日※	主な出演者：加納真実（マイムコメディ）、中国雑技芸術団（中国雑技）、大駱駝艦（舞踏） ほか	目標値	30,000
		主ホール※		実績値	1,307※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、全事業について予定通り実施することができなかった。令和元年以前の状況から目標・指標を設定したため、計画時よりも達成値が低くならざるを得なかった。当館ではミッションの5つの柱として以下を定めている。そして今年度の実施状況は以下の通りである。 <u>(1) 個性ある劇場としての芸術創造と芸術文化の振興を推進する。</u> <u>(2) 教育普及活動の推進と市民の芸術文化活動の拠点となる。</u> <u>(3) 安全、安心、快適な劇場空間を提供する。</u> <u>(4) 文化芸術の振興を通じ地域へ貢献する。</u> <u>(5) 地域における実演芸術の普及と水準向上に努める。</u> (1) について、全国的に舞台上演が中止になる中で、公演鑑賞事業のほか、街中で展開する大道芸のイベントの会場をホール内に変更し、感染症対策を講じたうえで生の身体表現に触れる機会の提供や、一般の高校生が出演する演劇公演も上演することで、個性ある劇場としての芸術創造と芸術文化の振興を推進した。 (2) について、地元の高中生や地元出身・在住の若手音楽家が出演する事業を実施することで、部活動や音楽活動が制限される社会情勢の中で活動の機会を提供し、若年世代を中心とした芸術活動の継続に貢献した。 (3) について、有名音楽家によるコンサートや、親子を含む幅広い世代が気軽に楽しめる大道芸等の事業では、安全に鑑賞・観劇できる場所として劇場が認知されることに繋がった。 (4) について、小劇場演劇などの地方で鑑賞機会の少ない演劇公演の上演のほか、地域人材を活用した舞台芸術の企画制作と発表を通して、地域に貢献した。 (5) について、地域人材を活用した事業を実施するとともに、継続して事業を実施することで、劇場や事業に関わる人材を拡げ、舞台芸術を中心とする実演芸術の普及と水準向上に努めることで、劇場や地域を支える人材がさらに増えることに貢献した。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
意義は継続している。来場者の居住地調査から、豊橋市内や東三河地域、愛知県内での認知度が高まるとともに、全国的にも当館の存在の周知は広まっていると考える。また公的助成金を受けることで、特に人材養成事業や地方公演が難しい小劇場演劇の招聘公演が継続して可能となり、公共劇場としての個性を高めている。 ○文化的意義 多彩な舞台作品の鑑賞機会の提供並びに高校生がプロの演出家やスタッフと共に舞台創作を行う「高校生と創る演劇」シリーズ等を通して、地域住民の文化芸術への関心を高め、鑑賞者・実演家両面の水準が向上した。 ○社会的意義 人材養成事業「若手音楽家育成事業」では地元の若手音楽家を起用しコンサートを開催。芸術的人材育成と共に入場料を低価格に設定することで、近隣に住む人たちが気軽に芸術に触れる機会を提供している。このように人材養成事業と鑑賞事業が重なり合い、双方の効果をもたらす事業を通して、地域社会へ貢献している。 ○経済的意義 アンケート調査では来場者居住地が「豊橋市内」32%「愛知県内」46%「愛知県外」22%となり、来場者の消費行動並びに遠方からの集客も実現している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

指標に掲げた数値目標に対し、達成できたものと達成できなかったものに分かれた。

理由：新型コロナウイルス感染症の影響による休館並びに全事業の中止や変更が余儀なくされたことと、豊橋市の指示による移動制限や入場定員の制限等で、当初計画のような事業実施が不可能となったため。

<公演事業>

①目標：新規顧客を増やすと同時に、繰り返し来場する観客を増やす。

指標：アンケート調査で来場回数が「はじめて」「2～5回」「6回以上」の割合が同程度を目指す。

結果：「初めて」25%「2～5回」45%「6回以上」56%

分析：感染症の影響で、新規顧客の獲得が困難だったため、目標に達しなかった。

②目標と指標：無料会員制度の加入者数を前年度比8%増やす。

結果：9.1%増加

③目標：広範囲からの来場者を増やす。

指標：アンケート調査で居住地が「愛知県外」の割合を20%まで増やす。

結果：愛知県外：22%

④目標：上演団体や演奏家を複数回招聘することで、劇場との関係性を深めるとともに、活動機会の提供を図る。

指標：平成29年度以降複数回招聘したアーティストの数を増やす。

結果：令和2年度に複数回招聘した団体：18組（内7組は公演中止）

<人材養成事業>

①目標と指標：「高校生と創る演劇」の参加者の参加満足度を90%以上とし、事業の継続希望を高める。

結果：参加満足度「満足・とても満足」93% 継続してほしい：100%

②目標と指標：「高校生と創る演劇」の「はじめて」の来場者を40%を目指す。

結果：「はじめて」24%「2～5回」43%「6回以上」34%（分析は公演事業①と同様）

③目標と指標：「高校生と創る演劇」のチケット購入者のうち高校生以下の購入割合を45%以上を目指す。

結果：「高校生以下」30.1%（分析は公演事業①と同様）

④目標と指標：「若手音楽家育成事業」で、若手音楽家に実演の機会を提供するために、オーディションで3組以上を選考するとともに、過去の出演者1組以上によるコンサートを開催する。

結果：オーディションは中止。令和2年度前半は過去の出演者のオンラインコンサートを配信した。

⑤目標と指標：「若手音楽家育成事業」のコンサート来場者の来場回数について、「はじめて」の割合が30%となることを目指し、新規顧客の獲得とリピーター双方の来場を目指す。

結果：「はじめて」29.6%「2～5回」34.4%「6回以上」36%

<普及啓発事業>

①目標と指標：芸術文化に触れる機会の少ない人の芸術参加体験を促進するために、「とよはしアートフェスティバル2020(TAF)」の参加者数を30,000人に増やす。(H29実績22,000人 H30実績27,000人)

結果：劇場参加者：1,139人 オンライン視聴数：168回

分析：会場規模を大幅に縮小し、劇場ホール内で人数制限を行い上演したため、参加者数は大幅減となったが、イベントの一部をオンライン配信することで、劇場に来ることができない観客も鑑賞することができた。

②目標と指標：TAFで鑑賞者向けの満足度アンケート調査を行い、高水準を目指す。

結果：「とても満足」「満足」100%

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年度の各事業について、事業期間に関して当初計画に基づき計画準備を進めていたが、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大と緊急事態宣言の発令に伴い休館となった。そして再開後も事業の中止・変更・延期は年間を通して発生した。この為、当初計画通りに進めることは不可能となったが、予定していた事業のオンライン配信への切り替えや、日程や規模の変更等が可能なものについては計画を変更し、実施した。

事業費についても、上記理由により当初計画通りに進めることは不可能であった。

令和2年度事業のうち、実施できた事業ごとの支出の要望時と決算時の20%以上の乖離は、7事業中2事業あった。この2事業が大きく乖離した理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響で、公演内容や事業計画を変更し実施したため、当初見込んでいた予算内容から減額となったため生じた。

その他の5事業については0-15%の乖離となり、当初の計画通りに支出した。

また、実施できた事業ごとの収入の要望時と決算時の乖離について、7事業中4事業が要望時の数値に到達しなかった。

乖離は90%-25%の収入減であったが、その要因は、公演事業では、当初計画から事業規模の変更や公演の一部中止、入場料金設定の見直しのため入場料収入が減額したこと、また人材養成事業については参加者を劇場に集める形式のワークショップ事業が実施できなかったため、参加費収入が得られなかったことによる。

しかしながら、3事業については収入増となっている。この要因として、要望時以降に決定した企業協賛金の獲得と、人材養成事業のうち「演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー」においては、当初は対面のワークショップ等の実施を計画していたが、遠隔でも参加できる手紙を活用した事業に切り替えることで、かえって多数の参加者が集まり、事業収入が増となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

穂の国とよはし芸術劇場では、豊橋市をはじめとする東三河市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るため、文化芸術交流施設として平成 25 年 4 月に開館した。開館以降、経験豊かな芸術文化プロデューサーやテクニカルマネージャーをはじめとするスタッフと、芸術監督的役割を担う芸術文化アドバイザーと共に、地域の文化拠点として事業を実施・計画している。

芸術文化アドバイザー

桑原裕子(劇作家・演出家・俳優・劇団 KAKUTA 主宰・平成 30 年度 4 月就任)

前・芸術文化アドバイザーである俳優の平田満の後任として就任。劇場の方向性や事業等について、芸術文化プロデューサーやスタッフらと共に、計画推進している。桑原が作・演出を務め、平田満が出演し、当館のプロデュース公演として上演した「荒れ野」(平成 30 年初演、令和元年再演)は、初演時に第 5 回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞並びに第 70 回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞を受賞し、高い評価を得ることで、地方から創造し、発信する劇場としてその存在を内外にアピールした。

新国立劇場との連携

公益財団法人豊橋文化振興財団と公益財団法人新国立劇場運営財団 は、それぞれが運営する穂の国とよはし芸術劇場と新国立劇場との連携・協力に関する協定を令和 2 年 2 月に締結した。今回の協定は、それぞれの劇場等で実施する公演のほか、人材の交流・育成などについて緊密な協力関係を築き連携を深めることで、劇場の活性化に資するとともに、地域における実演芸術の普及向上、教育及び文化の振興に寄与すること、ひいては豊橋市の芸術文化の振興に貢献することを目指している。

地域との連携

平成 27 年度より豊橋市教育委員会と連携し、豊橋市内の小学校・中学校・特別支援学校でのアウトリーチワークショップを実施している。各学校からの実施希望調査を教育委員会が取りまとめ、当館はワークショップファシリテーターの紹介・調整と、学校でのワークショップのコーディネートを行っている。

施設の安全管理

火事や有事に備え「防災委員会」を発足。舞台技術部、事業制作部、総務・経理部のスタッフが参加し、劇場独自の防災計画策定と、避難訓練等を定期的実施している。

主な受賞歴

開館以降、施設(ハード面)と事業(ソフト面)について、高い評価を得ている。

◎平成 26 年 第 57 回「BCS 賞」(豊橋市の規模にふさわしいコンパクト、高機能の劇場として評価)

◎平成 31 年 「平成 30 年度地域創造大賞(総務大臣賞)」(本格的な演劇・ダンス・音楽などの鑑賞事業の提供と「高校生と創る演劇」等の参加型事業やファシリテーターなどの人材育成にも尽力。豊橋駅と直結した市民が集う“まちなか文化施設”として地域の活性化に貢献したとして評価)

◎令和 2 年「第 17 回公共建築賞・優秀賞」(地域社会の貢献や設計、施設管理と保全などを評価)

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染症の影響により多くの公演や事業が中止・延期となったが、いくつかの事業では実施形態を工夫して、市民に何らかの形でその成果を届けられるようにした。

(1) 事業の企画内容、芸術性

公演事業では、PLAT 小劇場シリーズのうち地点「君の庭」、アル☆カンパニー「POPPY!!!」、木ノ下歌舞伎「義経千本桜」の3公演、Noism『春の祭典』／『Fratres III』、小曽根真クリスマス・ジャズライブを、公文協ガイドラインなどに準拠したガイドラインに基づき実施した。「君の庭」は劇場に観客を入れて上演すると同時に、映像配信でも鑑賞出来る形式をとった。「POPPY!!!」は、リーディング形式による上演とすることで、感染リスクを避けるとともに、次年度の本公演に向けた作品の基礎作りの機会とした。様々な制約があるなかでも、生の舞台を欲する観客の要望を適えることができた。

人材養成事業において、高校生と創る演劇「Yに浮かぶ」は、豊橋に数多く残されている民話をもとにして、演劇ユニット mi zhen の藤原佳奈のテキスト・演出により、地元地域の高校生達と作品を創造した。新型コロナウイルス感染症の影響により活動や公演が中止になってしまった高校演劇部員が例年に比べて多く参加することになり、学校での活動ができなくなってしまった高校生達と感染症対策を万全にしての稽古から集中力を高く持ち、最終的には参加者全員で観客を入れての上演までたどり着くことができた。

若手音楽家育成事業では、上半期に予定していたコンサートは全て中止、新規オーディションも募集中止とした。そのような状況のなか、過去に関わった音楽家の企画・発案により豊橋が舞台となった NHK 朝の連ドラ「エール」のテーマソングのリモート演奏の配信映像を作成。また、地元で活動している過去の参加者と地元在住の舞台映像作家を起用して、映像配信コンサートを企画し劇場 YouTube チャンネルで発信した。演劇・舞踊ワークショップ&レクチャーでは、観客が集うことができなくなってしまった劇場の状況を捉えて、劇団「ままごと」とともに「LANDMARK／ランドマーク」プロジェクトを企画し、手紙やオンラインを活用し、「集う」ことが困難な状況に陥った劇場をランドマーク＝目印にして再会を生み出すプロジェクトを実施した。

普及啓発事業では、毎年ゴールデンウィークに、豊橋駅周辺のまちなかの複数の会場で開催していた「とよはしアートフェスティバル 2020『大道芸 in とよはし』」を、11月に延期し、それも屋外での開催は行わず、劇場の舞台のみで実施した。感染症対策のために、観客は全席指定席として客席に座って鑑賞する形式をとった。

(2) 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信

当館のホームページにて「運営方針」を掲載している。また劇場ホームページや SNS (Facebook、Twitter)、偶数月発行の劇場広報誌「プラットニュース」は、インタビューを中心に公演などの事業を紹介する印刷媒体としてだけでなく、ホームページからも閲覧・ダウンロードできるようにしている。YouTube チャンネル、豊橋市のコミュニティラジオ（エフエム豊橋）での毎週の番組出演、地元新聞社（中日新聞、東愛知新聞、東日新聞）等への情報提供などをコンスタントに行い、常に情報を発信している。終了した公演や事業の情報も HP に残す事で、劇場としての活動記録のアーカイブ機能も果たしている。

また、毎年実施している「高校生と創る演劇」事業の報告書や「ワークショップファシリテーター養成講座」などで作成した冊子を始め、その他の印刷物も劇場ホームページからも閲覧できるようにしている。常に新しい情報を複数のチャンネルで発信するとともに、人材養成事業、普及啓発事業を中心に活動記録を蓄積している。当館が連絡通路により直結する豊橋駅は、JR 新幹線、東海道本線、飯田線、名古屋鉄道等の多数の鉄道路線が伸び、加えて路面電車・路線バスの公共交通機関も集中し、「東三河の交通拠点」として位置づけられている。この立地条件を活かし、東三河エリアだけでなく広範囲からも集客実績を上げている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【運営方針について】

当館は開館以来、事業運営を「公益財団法人豊橋文化振興財団」、施設維持管理を「PFI 事業者による管理（15 年契約）」とする併用方式を用いている。

当館を運営する（公財）豊橋文化振興財団は、設置自治体である豊橋市からの指定管理のもと管理運営を行っており、2 期目は平成 28 年 4 月～令和 3 年 3 月までの 5 年間である。令和 3 年 4 月からも 5 年間の指定管理者として指名を受けている。

【雇用について】

事業制作部と舞台技術部職員は、雇用期間に応じて雇用形態の転換を行っており、初年度に嘱託職員、2 年目から 4 年間は任期付き職員に転換。勤続 6 年目以降は無期雇用に転換している。令和 2 年度現在は以下の通り。

事業制作部職員（任期付き：6 名 無期雇用：6 名 豊橋市からの出向：1 名 嘱託：1 名）

舞台技術職員（任期付き：4 名 委託業者：3 名）

総務・経理部（期間を定めない雇用：3 名 嘱託：2 名）

※事業制作部に令和 2 年度から 2 年間豊橋市職員を出向配置、関係部署との円滑な連絡調整が可能となっている

【職員の人材養成について】

全国規模の劇場・音楽堂等の職員を対象とした研修の参加及び講師として参加している。芸術文化プロデューサーは、全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会 2021 にて企画委員及びモデレーターを務めるとともに、文化庁委嘱事業として全国公立文化施設協会による「劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援 支援員の派遣による支援」の支援員として鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）の支援を実施した。これまでの経験や、穂の国とよはし芸術劇場での実績に基づいたアドバイスを行うとともに、そのために自らの活動を検証する機会ともなり、今後の活動を見直すことにも繋がった。事業制作部については、研修費や舞台公演の鑑賞費の補助を目的とした予算を確保している。また、令和 2 年度から 2 年間、事業制作部職員 1 名を「一般財団法人地域創造」に出向させ、当館の今後の経営・事業運営に関わる人材育成を行っている。

【他館とのネットワーク】

有効性で記載した新国立劇場との連携協定のほか、東京芸術劇場、KAAT 神奈川芸術劇場、彩の国さいたま芸術劇場等の首都圏の公共劇場制作の公演を地方の公共劇場と連携し上演するとともに、ロームシアター京都や KAAT 神奈川芸術劇場とは 3 館共同製作による作品の上演も行っている。

【財務面】

特定費用準備資金（地域還元人材育成事業積立金）を用意し、将来の地域を担う人材育成事業を長期的・継続的に実施するための財源を確保している。

財団維持会員（年会費 3,000 円～20,000 円）や、特別賛助会員（一口 50,000 円／年間）制度を設け、個人や文化団体、企業からのファンドレイジングを行っている。

地元企業から「特別協賛」として、年間 3 公演を対象に協賛金を獲得している。